

英プラガイド③



ことばは、わかちあうものです。相手の身になってセリフを出し入れすること。このプラクティスは、一緒に歩む仲間がいると励みになり、支えになります。

英プラは、英語のプラクティスをみんなで支えあう場です。プラクティスを共にしている人の存在が、目に見えない大きな力になります。

一緒にプラクティスしたい仲間と「わかちあう」をお申し込みください。エンパグラフの「つながり」で、じぶんが寄り添う相手のシードが見えるようになります。プラクティスをはじめてからでも、いつでも「つながる」ことができます。

プラクティス「わかちあう」では、シードを相手と共有できます。そのシードをふりかえり、ことばを交わすことができます。これは、SNSのチャットとは意味がちがいます。お互いのシードについて相手とふれあうということを通して、じぶんとことばの結びつきをさらに強めるプラクティスになります。

英プラを使った実習事例

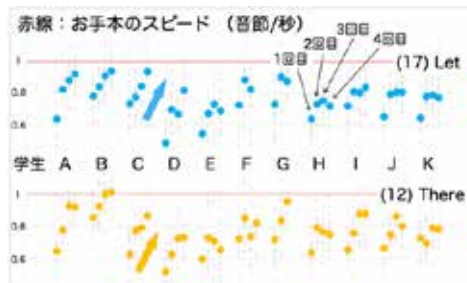
東洋大学理工学部生体医工学（吉田善一教授）では、2017年より、エンパシームを使って「無意識を鍛える」という実習を行なっています。日常の無意識的な行動を実感し、毎日の自宅でのエンパシーム・データを利用して科学的に分析します。

2020年からは英プラを導入。英語を声に出すことで、無意識に話せる母国語とはちがい、意識せずには動かせない口の周りの運動を実感し、プラクティスのくりかえしによる変化を分析しました。

図1は、1週間の中での学生（A～K）の変化を表した一例です。1回目、シードを自力で読む。2回目、お手本の声を聞いてプラクティス。3回目、ツボ・miniプラを届けてプラクティス。4回目、セリフを話すつもりでプラクティス。各自50以上のフレーズを声にしたデータを集計したものです。

各自の変化の特徴もあらながら、全員お手本に近づき、平均で29%、話すスピードが上がっています。適切なプラクティスの場を準備し、実践することで、短期間でも大幅に改善することを示しています。

図1：学生の発話スピード（音節/秒）の上達



英プラは、みんなの声セリフのイノベーション

エンパシームは、共通の形式・単位で、人それぞれのプラクティスを表現し、記録し、そして共有できるメディアです。

同時に、プラクティスする人の毎日の学習過程を捉えた、共通形式のデータです。これを、英語のプラクティスに役立て、より効果的な学習法につなげていくことができます。

高いお金をかけなくても、英語と、日々のプラクティスを身につけられること、それをわかちあえるようなくみが、これまででありませんでした。英プラでは、誰もが、じぶんの手持ちの力で身近な社会に関わりながら、じぶん自身を励まし、人の助けになることができます。

英プラは、声セリフで人と人をつなげるイノベーションです。

音声科学をプラクティスに

図2は、workのrの発音について、上のグラフがお手本♣（英語ネイティブ）、下が学生Dの4回目（図1で示したスピードの上達率が高かった学生）を表しています。rの音は、第2および第3フォルマントに特徴がありますが、青色で囲ったように明らかな違いをみることができます。（フォルマントは、発音を特徴づける音の周波数パターン）

図2：workの「r」の発音のフォルマント比較

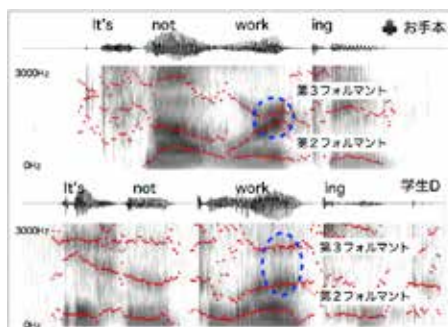


図3は、図2で示した第2、第3フォルマント周波数を横軸、縦軸にして、学生（11名の4回分）と英語ネイティブを表したものです。青色の点が学生、赤の点が英語ネイティブです。

すでに身につけている日本語の「ワーク」という単語の音に引っ張られてしまう傾向があるためか、赤点線枠で示すネイティブ領域に学生データはほとんど入っていません。一方、回を重ねるごとに英語ネイティブ側に近づいている学生（例：学生A）がいることもグラフの中で示すことができます。

たった1秒のセリフで、人の役に立てる

英プラは、参加者がトレイルを一緒に歩む、あなたのコミュニティです。学校や職場などのグループで、プラクティスする人と、みちびく人、世話する人たちが一緒になり、助け合うことができます。その実例をご紹介します。

しっかりコースを歩むユキさん（ガイド2にも実例）は、プラクティスのお手本とじぶんを比べ、また、トレイル上のじぶん自身をふりかえり、以前のじぶんと比べます。その様子をわかちあってくれました。

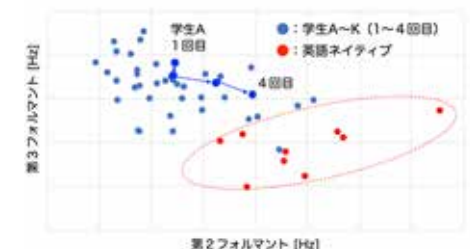
「お手本の声が思い出されるようになりました。読まないで、ひと息でやることなんですね。」

ユキさんの実例は、miniプラ「ストーリー編」として公開しています。

このように、ほんの1秒あまりのシード、それも初心者のプラクティスがとてもありがたい、手助けになるのです。飾らない、ふだんのプラクティスのシードひとつひとつが、貴重な貢献になります。



図3：学生全体と英語ネイティブの分布差



共同プロジェクトにしよう

これまで、日本語の特徴である「カナモジ式」の発話が、英語に影響する例は数多くあることが知られていながら、それを統計的に評価し、定量的に評価する方法がありませんでした。エンパシーム・データを利用してこのように可視化することで、グループ、個人の現状を把握し、効果の高いプラクティスにつなげ、その上達を目の当たりにできるようになるのです。

皆さまの参加によって、日本語を話す私たちの特徴を統計的に把握し、科学的な方法を組み込んだ学びのメソッドとしてさらに発展していきます。

ご自身の参加の時にその恩恵をうることだけでなく、次に参加する人たちへ受け渡していくことにもなります。ほんの数秒のことばをわかちあう気持ちですが、新しい参加者、そして、じぶんを支え、社会全体に貢献することができるのです。

エンパシームファウンデーションでは、グループでの英プラを共同プロジェクトとしてすすめて参ります。広く、皆さまのご参加をお待ちしています。

英プラの世界をつくろう

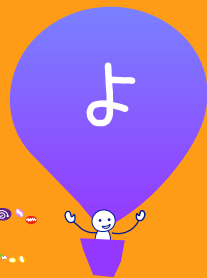
英プラの目指す活動

英プラは、非営利一般財団法人エンパシームファウンデーションが主宰する新しい取り組みです。エンパシームは、ふだんは気づいていない、人間に備わった力を引き出す発明特許です。声にする力、一瞬待つ力、音で覚える力、相手を想像する力、共感する力。

エンパシームをアプリ化し、その提供を負担することで、英プラのコンテンツをできるだけ安くお届けします。「1日あたり100円ほど」の参加費で、誰もが安心して参加できる「共有の場」をつくります。そして、ひとりひとりのエンパシームを大切に保管し、さらに社会に活かします。

協業・募集中

ひとりひとりの「毎日のプラクティスを身につける」という大切な営みを「証」にします。テストの点ではなく、日々の実践習慣こそ宝です。個人を支援し、グループ、コミュニティを発展させるための貴重な情報を、エンパシームから取り出すことができます。今後、事例をエンパシームサイトに掲載していきます。個人の方はもちろん、学校、企業、研究機関、地域社会などの団体・グループ参加をお待ちしています。ぜひ、お問い合わせください。



プラクティスの秘訣

みちゆくときよ：エンパシームサイト「毎プラ」